

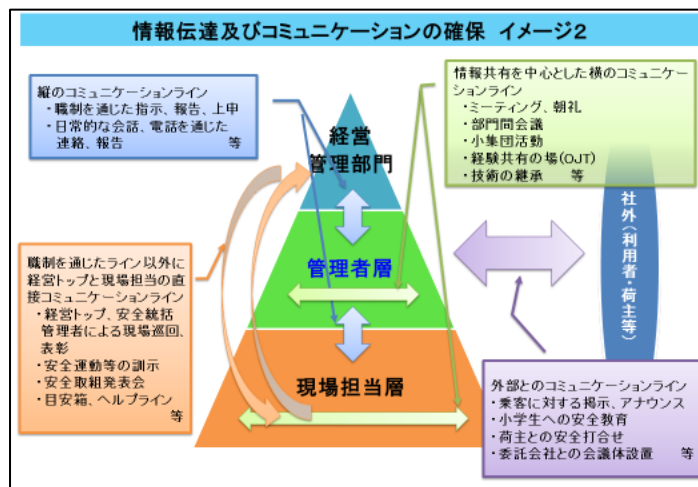
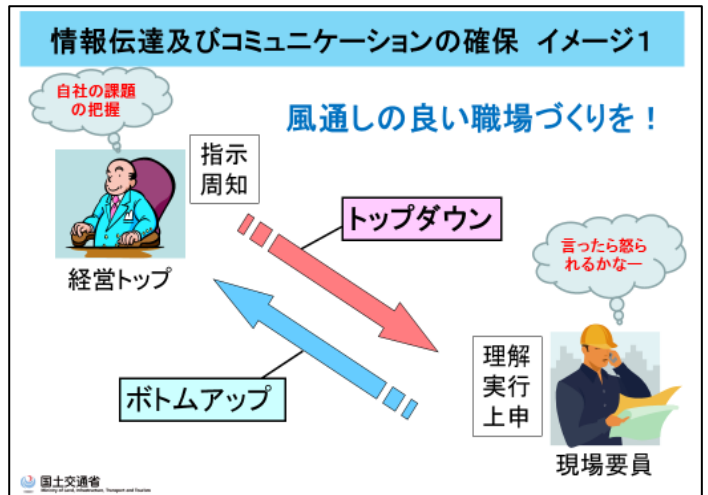
安全推進室だよ！ Vol8

風通しの良い職場を作るために
～情報の伝達とコミュニケーションの確保を！～

運輸安全マネジメントは、経営トップがリーダーシップをとって、安全に対する各種取組を実施するものですが、実践するのはやはり現場の方々であり、リスクや課題は現場が一番感じています。

そのために不可欠なのが、「**情報伝達とコミュニケーションの確保**」であり、現場の思い・考えがしっかりと経営管理部門に伝わらないと、安全管理は機能しません。

社内における縦断的な情報の伝達は、**トップダウン**となる会議体等を通じた指示、周知がありますが、逆に安全管理者等が現場からの状況を把握し、その情報を上部に伝えたり、現場から直接上申する**ボトムアップ**が容易に出来る環境を作ることが必要です。



多くの事業者は上図のとおり3層構造となっており、経営管理部門と現場担当層を繋いでいるのが管理者層であり、そのあり方が昨今注目されています。

管理者層は、経営の考えを現場に、現場の状況を経営に繋ぐ重要な役割を担っており、せつかく現場からの情報が上げられてきても、報告が止まってしまっは元も子もありません。

そのために、この**ミドルマネジメント**と言われる階層の方には、右図のとおり、「**説明する力**」「**気づく力**」「**報告する力**」が求められています。

コミュニケーションの活性度合として、ある経営トップの方は、「耳を塞ぎたくなるような話」が普通に届くこと、また、「前向きな改善提案」が多く寄せられること、と話をされるなど、活性度合の「ものさし」を持つこともポイントのひとつです。

そのためには、経営トップが現場とコミュニケーションを直接行ない、現場のモチベーションを向上させるいろいろな活動を実施するとともに、その情報を上申させる雰囲気を作ることも必要となってきます。

左図のとおり、社内各部署にまたがる横断的な会議体であったり、全体朝礼、OJT 等での情報共有は、**横のコミュニケーションライン**とした社内で統一した安全意識を構築するのに役立ちます。

また、委託事業者、利用者、荷主等、外部の方との情報共有が不十分なことで事故が起きる場合には、関係者との安全啓発活動も欠かすことが出来ません。

